

シノドスへの歩み みことばと共に 神の母聖マリアA年

小西広志

2023年1月1日

朗読箇所

第一朗読 民数記 6章 22-27節

第二朗読 ガラテヤの信徒への手紙 4章 4-7節

福音朗読 ルカによる福音書 2章 16-21節

はじめに

東京教区の皆さん、こんにちは。今日は2023年1月1日、神の母聖マリアを教会はお祝いします。今日はいつもと形を変えて、ミサでの説教のようなお話をしましょう。

穏やかなところでミサができる

深夜のミサもそうでした。本当に穏やかなところでミサができます。久しぶりのような気がします。

哀しみや苦しみ、不安や恐れのようなものを抱えながら毎日を生きていく中で、穏やかな、安らいだころになれることはなかなかありません。

ミサをするわたくしも同様で、いろいろなものを抱えながらも、こうやって一年の始まりを穏やかなところで迎えることができたのはありがたいです。

穏やかなところをたもつには？

もちろん、知っているわけです。この穏やかさがいつまでも続くことがないことを。

わたくしも、今日から5日まで修道院の食事を作らなければならないので、あれこれと落ち着きがなくなりそうです。

できれば、今日のこのころ、この気持ちを持ち続けて、新しい年の毎日を過ごせたらありがたいなと思います。

穏やかなころは神さまからのプレゼントです。自分で獲得したものではない。しかし、同時にすこーしわたしの側の努力も必要かと思います。

今日の三つの朗読に、今、味わっている穏やかなころを保ち続けるためのヒントのようなものを見つけました。

祝福

第一朗読は俗に「アロンの祝福」と呼ばれる箇所です。今でもユダヤ教ではこの箇所を使って祭儀の際に祝福の祈りをします。

ユダヤ教だけではありません。例えば、アッシジの聖フランシスコはこの祝福の言葉で自分の仲間、兄弟たちを励まし、力づけました。

「神が御顔を向けて」とは、神の方がわたしに向かって顔と顔を付き合わせてくださる様子です。

神が御顔をわたしに向けてくださるから、平安、平和、穏やかなころが得られるのでしょう。

いつも、いつも、「神よ、あなたの御顔をわたしの方へと向けてください」と祝福を願う祈りをしていけたらよいだろうなと思います。

神の子

第二朗読では、その神から祝福を受けたわたしたちが、どのようなものへと変えられていくなかが描かれているようです。

それは、「神の子」となることです。しかも、イエスさまとおなじように神の子となる霊をいただいて、

イエスさまがそうであったように、神さまに向かって「アッパ、父よ」と親しみを込めることができるようになるのです。

この一年、「神さま」ところの中で呼びかけるのではなく、「アッパ、父ちゃん」と親しく呼びかけてみたいと思います。

そうしたら、アッパ父ちゃんは、穏やかなころをどんな時にも送ってくれるでしょう。

思い巡らす

それでもなお、わたしたちは知っているわけで、つまり、この穏やかなところが長続きしないことを。

こころのアップダウンはけっこう激しいものがあります。

思いもかけないことが起こる毎日です。毎日の出来事の波にもてあそばれて、アップアップで生きていくのが現実かもしれません。

そしたら、穏やかなところがどこかに行ってしまうことは、よくある話しです。

そんな折り、今日のマリアさまの態度を真似できたらよいかと思いますね。「これらの出来事をこころにとめ、思い巡らしていた」

想定外の出来事に、すぐに反応するのではなく、キツくなっていらつくのではなく、とりあえずこころに留めて、味わってみる。

何かそんな態度が必要なのかと思います。

まとめ

新しい年を迎えました。何がおめでとうなのと毒づいていたうちの高齢の神父さんも今朝いましたけど、

「おめでとう」は祝福の言葉です、祝福のことばで始まったこの一年、最後には「ありがとう」のこころからの感謝のことばで終わることができますように。

それではまた来週。